

景観まちづくり審議会委員のご意見と事務局の考え

※いただいたご意見のうち、報告書の書き方に関するものをこの資料に掲載し、意見への対応等事務局の考えを記載しました。その他のご意見は全て報告書の「6 茅ヶ崎市景観計画前期（2018（H30）～2022（R4））実施事業に対する景観まちづくり審議会による答申」に掲載し、景観計画後期の事業を進める際に参考とさせていただきます。

No.	委員からのご意見	事務局の考え	関連ページ
(1) 特別景観まちづくり地区の指定			
1	地区指定の有無だけでみるとCとなるが、事業概要に述べている「地区指定の方法の“検討”」の部分をもう少し具体的に書けたり、付帯する取組が地区指定拡大への布石であることが説明出来たならば、Bにすべきと考える。	新しく項目を作り関連事業の影響により根本的に着手不可能であった事業をB-としました。	17,18,19
2	地区指定拡大のための仕込みをきちんと行っていることを示すことに意義がある。「地区指定」をゴールとしつつ、前に進める動きもアピールできるように、目標や事業遂行上の課題を少し詳細化されてはいかかが。特別景観まちづくり地区は、景観行政にとって特に主体性と先導性を象徴する意味合いがあるので、それが「C」であることは問題。	また、他計画による整備事業について、計画期間中であり事業が遅れているわけではないので計画期間があるものは追記しました。	
3	街区整備等が実施されなかったため、「達成できなかった」と評価するのは違う印象である。予定していた整備事業の進捗が遅れたということであれば、遅延の原因について関連部局間で共有・対処検討をしておいた方が良いのではないかな。		
4	「辻堂駅西口地区」「茅ヶ崎海岸・漁港地区」では事業環境が整っていないので、事業実施に進捗がないのは当然と言える。		
5	計画や報告書は、市民へのPR資料でもあり、景観行政そのものの印象に繋がる。冒頭から「オールC」というのはかなり残念な印象を受けるため、極力、計画達成に向けて前進していることを読み手に印象づける調整をご検討ください。		
6	事業進捗を見ながら指定作業を進めていただく方針が良いと思う。前期実績評価はCとしたが、実質		

	的には評価不可能と認識している。報告書の p.15 でも、本質的に C 評価のものと区別するため、C* というような評価区分をつくってはいかがか。		
7	事業遂行上の課題に記載がないため、記載できることがあれば、記載した方が良いかもしれない（記載すると差し支えあるような内容なら、または特段の課題がないようなら、無理に記載せずにこのままで問題ない）。	事業に未着手のため課題がまだ出ていません。	17,18,19
(2) 景観資源の指定			
8	(1) 同様、「指定の有無」だけ評価をするのではなく、「指定に向けた動き」「指定そのものの戦略(対象/手順/支援策/付帯事業等)」「指定後の活用」を総合的に判断したほうが良く、その上で実施状況がないものはCに、まち起こし事業等の取り組みがあるものはB、取り組みが多いものや反響が大きかったものをAに引き上げるべきと考える。	No.1 と同様	21,22
9	鉄砲道など景観重要公共施設に指定されていることをより広くより分かりやすい形で広報できると今後に弾みがつくと考えられる。茅ヶ崎には市民が誇りに思う景観資源が多くあり、また景観資源の指定は景観の重要性を市民に理解してもらう貴重な機会である。報告書にもある通り、指定を行うための取り組みの流れを早急に整理し、景観資源指定を積極的に指定してほしいと思う。	令和5年度の1年間に市の広報紙である広報ちがさきで景観資源を紹介する連載をする予定です。	20
10	コロナ禍の影響に伴う遅れを取り戻す勢いで行う事業なのか、それとも重要度の再設定など事業計画の改善を行うのか、「事業遂行上の課題」に対するアンサーとしての記載も必要と思う（特に景観重要建造物）。また景観重要樹木についても同様に、クスノキの指定と並行して、今後の管理や指定についてのあり方整理の記載が必要と思う。	今後のスケジュールについて記載を一部修正しました。	21,22
11	他の事項にも言えるが、「今後のスケジュール」に目安時期が書かれていない点やその上段の「スケジュール」の「予定」欄との不一致が読みにくさに繋がっている。表現を変える等、極力、読み手に合わせて調整頂きたいと思う。	表現を修正しました。	17~34
(3) 公共サインの整備			
12	事業費が記載されている事業が多いため、年度ごとの実施費用やサインの設置数等も示せば、より説得力が高くなると思う（事業費の明示がない協議・定期点検は記載されているが…）	年度ごとの事業費を掲載できるものは掲載し、サインの設置数及	24,25

		び設置場所を記載しました。	
13	目標達成してしまった事業で、これ以上の設置がない場合は、今後のスケジュールにおいても冒頭に「事業目標が達成されたため…」と、効果的な運営や他事業への注力する旨を伝えられればと思う。	文言を追加し修正しました。	24,25,26
(4) まち起こし事業			
14	現状でも事業達成度合いが伝わるが、参加した児童数、ポスターやリーフレットの発行数や配布先等、事業性が伝わる情報も記載が必要と思う。	具体的な数字や広報、展示状況などを追記しました。	27
15	メディアやHPへの掲載があれば、併記されると、よりインパクトがある。		
(5) その他事業			
16	財源の確保について、「財源の創出」にまで至らなくても、検討をしたことについてはプラスに評価できないか、と思う。市民、事業者への支援について、活動内容やまちづくりの成熟度に即した助成をしているという記載がないと、件数だけだと「支援も減っている」という印象だけが残ってしまう。活動などの情報共有は、件数も大事だが反応も大事。反応数を記載した上でA~Cの判断をすべき。また、付帯する取組の『まちづくり制度のあらまし』も内容が確認できないため判断ができない。情報共有・発信は、基本的に見た人の反応やユーザビリティとセットで判断すべき。全体的にシビアにみましたが、現状だと上記の印象などからCとの印象ですが、必要な情報を追記し、今後の展開も前向きに示すことでBとして報告が出来ればと思う。	財源の確保について、活動目標を財源の確保の検討及び運用としていることから、検討したことについてB+一部達成と評価することにしました。そのほか追記できるものは追記しました。	31,32,33
17	財源の確保について、手数料は負担を増すから×とある一方で、屋外広告物の問題が所有者や未申請者にあることも別途記載されているため、問題&業務負担となっているところから徴収すればよいのでは、と読み手は思ってしまう。財源は重要なことなのでもっと前向きな記載を望む。	屋外広告物条例違反者等に対する過料などの創設は、運用面の観点から現実味に欠けると認識しています。公共サイン等をデジタル化し、広告収入を得るなどの研究を進めていますが、報告書に記載するレベルに達していないため現状の記載としています。	31

18	景観整備機構・景観協議会は、必要に応じて設置するもののため、必要がないのであれば未達ではなく、評価外とするべきと思う。	No.1 と同様	34
(1)～(5)の事業以外のことについて			
19	景観計画がゾーン別にメニューと取り組みを書いているので、中間報告もその形式に合わせた方が見やすい。	各事業について関連するゾーンを示しました。	17～34
20	P35のまとめ部分で、(1)(3)(4)は対象エリアも件数も明確なので結果の判断がしやすいが、(2)(5)は仕込み・仕組みの領域のため、後期に向けて報告書を読んだ市民や事業者が「これからこんな景観づくりに取り組むんだ」と期待感や共感を生む記載が望まれる。現状の書き方は自己評価を厳しくされていることもあり淡々としている印象にあるが、大事なのは景観づくりの理解者やパートナーを増やすことなので、その点を強く意識して記載頂ければと思う。	「景観計画後期に向けて」という項目を新しく作り、方針を掲載しました。	57～60